

本年度の具体的な学校経営目標	分掌	本年度の具体的な学校経営目標を達成するための課・年次内での具体的方策(教育活動)	評価基準
1 個別最適化に対応し、学力を最大限に伸ばす学習指導	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲を引き出し、実践的英語力を伸ばすためにグローバル活動に参加する機会を充実させる。 英語科と連携し英検対策学習システムを構築する。 	・国際交流活動に積極的に取り組んだ生徒数 (R3 48名) 4: 100人以上 3: 60人以上 2: 30人以上 1: 30人未満
	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程に対応した評価のあり方の研究、教育課程の再検討を教科を中心として進め、教務課がとりまとめて2回以上の報告を行う。 少人数講座、習熟度別講座の効果的な運用についての検討を進める。 	学校自己評価アンケート(生徒) 「先生は生徒の学力が伸びるよう授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる。」 肯定的評価の割合 (R3生徒88% 保護者84%) 生徒 4: 95%以上 保護者 4: 90%以上 3: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 2: 75%以上 1: 80%未満 1: 75%未満
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の学習進捗に最適化された選択課題の研究を進める。また、スタディサプリなどのICT教材を有効に活用し、主体的な学びとリメディアルな学びを促進する。スタディサプリ到達度テストとその結果に紐付いた運動課題配信を年間2回実施する。 教科全員で、3年の実力考査の問題(知識・理解、思考・判断、知識の活用力を測る)の作成と分析(難易、到達度、校外模試との相関など)を行い、学力を高い精度で評価できる指標を作成する。 教科科目で実力考査の作問検討や分析、大学入試問題研究や、予備校主催の入試研究会参加後の情報共有など、年間5回以上の教科会議を行い、教科指導力の向上を目指す。 	5教科の問題研究や研修プログラム共有のための会議の実施回数の平均値で評価。 4: 年7回以上 3: 年6回以上 2: 年5回以上 1: 年5回未満
	探究課	<ul style="list-style-type: none"> 「思考力・判断力・表現力」を伸ばす多様な学びを進める授業実践 <ol style="list-style-type: none"> 年間2回教員相互の授業参観の機会を設定し、授業改善、学力向上につなげる。 公開授業に外部講師を招聘して指導・助言を受ける。 学力向上ワーキンググループ、学力向上委員会と各教科が連携を取り、教科会議を有効活用して授業振り返りや学力分析、大学入試問題研究等を行う。 	学校自己評価アンケート(生徒) 「先生は、生徒の学力が伸びるよう授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる。」 肯定的評価の割合 (R3 生徒 87.7%) 4: 93%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満 ・「教科会議や校内外の授業見学などを通じて授業改善を進めている。」 肯定的評価の割合 (R3 教職員 87.5%) 4: 93%以上 3: 90%以上 2: 80%以上 1: 80%未満
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の特性・能力に応じた助言をするため、面談する機会を多く取る。 ＜具体的方策＞ <ul style="list-style-type: none"> 年間5回担任との面談 選択科目のため教科面談 難関大志望者への面談 	学校自己評価アンケート(生徒) ・「先生は、普段からよく生徒を見て適切な助言をしてくれる」 ・「先生は、生徒の学力が伸びるよう授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」 ・「進路相談について、面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる」 肯定的評価の割合の平均 (R3 生徒 87.4. %) 4: 92%以上 3: 88%以上 2: 84%以上 1: 84%未満
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> 個々の学力の的確な把握、個別最適な学習指導、自律的な学習の促進を図る。 ＜具体的方策＞ <ol style="list-style-type: none"> 年5回の面談、必要に応じた教科面談 習熟度別授業、選択(または自主)課題設定 継続した授業改善、大学問題研究 難関大、岡山大志望者集団への働きかけ 	学校自己評価アンケート(生徒) ・「先生は、普段からよく生徒を見て適切な助言をしてくれる」(生徒肯定的評価の割合 (R3 1年次 86.1%) ・「先生は、生徒の学力が伸びるよう授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」肯定的評価の割合 (R3 1年次 87.2%) 肯定的評価の割合(それぞれ) 4: 90%以上 3: 85%以上 2: 80%以上 1: 80%未満
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> 年次全員が学力状況を把握、対応策に共通理解を持って取り組む。 同じ志を持ち、互いに学びあう仲間を作り、進路実現を目指す。 	学校自己評価アンケート(生徒) 「先生は、生徒の学力が伸びるよう授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」 肯定的評価の割合 (R3 2年次 91.2%) 4: 98%以上 3: 92%以上 2: 85%以上 1: 85%未満

本年度の具体的な学校経営目標	分掌	本年度の具体的な学校経営目標を達成するための課・年次内の具体的な方策(教育活動)	評価基準
23年間を見通したキャリア教育計画に基づいた進路指導	進路課	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の進路実現を支援するために3年間を見通した進路指導計画や進路指導プログラムに基づいたLHRや総合的な探究の時間、面談などを通して、きめ細かい進路指導を行う。 ・最新の進路情報の提供を行い、生徒・保護者双方の進路意識を高めるために各年次進路だよりの配布や保護者会、進路講演会などを計画的に実施する。 	学校自己評価アンケート(生徒) 「進路相談について、面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる。」 肯定的評価の割合(R3 生徒 88.5%) 4:93%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満
	探究課	進路実現につながる系統的なキャリア教育プログラム構築 ①「総合的な探究の時間」・LHR計画に基づいて探究活動を実践しながら、進路課が作成する「進路カレンダー」と「キャリアロードマップ」が有機的に連関するように計画案の改善を図る。 ②スタディサプリの「活動メモ」及びM-PRIDE手帳を担任面談の際にも活用し、デジタルとアナログの利点を活かしながら、1年間の振り返りをキャリアパスポートにまとめる。	学校自己評価アンケート(生徒) 「総合的な探究の時間やLHR等が自らの進路設計に結びついている。」 肯定的評価の割合(R3 生徒 80%) 4:85%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
	1年次	生徒が探究活動を積極的にを行い、将来の進路について具体的に考えられるようにするためにStart-up Programなどの行事や授業、集会を通して、自分を理解し、自分の住む地域のよさを発見させる。	学校自己評価アンケート(生徒) 「総合的な探究の時間やLHR等が自らの進路設計に結びついている。」 肯定的評価の割合(R3 生徒 80%) 4:86%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:75%未満
	2年次	自分の進路を開拓していく能力を育成するために、進路指導と連携した、一貫性のある探究活動を推進する。 <具体的方策> ①年間進路カレンダーに沿った系統的な進路学習 ②課題研究を通じた探究活動の深化 ③生徒が自ら企画立案し、実行に移す機会創出 ④講師、卒業生など外部と接する機会増加	学校自己評価アンケート(生徒) 「総合的な探究の時間やLHR等が自らの進路設計に結びついている。」 肯定的評価の割合(R3 1年次 81.6%) 4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:75%未満 ・「私は自分に誇りを感じたり、ものごとを成し遂げる能力が身についてきていると思う」 肯定的評価の割合(R3-1年次 72.4%) 4:80%以上 3:75%以上 2:65%以上 1:65%未満
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的・計画的な面談・学習実態調査等を実施する。 ・時期に応じた進路情報を発信する。 	学校自己評価アンケート(生徒) 「進路相談について、面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる」 肯定的評価の割合(R3 2年次 92.6%) 4:98%以上 3:95%以上 2:85%以上 1:85%未満	

本年度の具体的な学校経営目標	分掌	本年度の具体的な学校経営目標を達成するための課・年次内での具体的方策(教育活動)	評価基準
3 自律性と豊かなつながりを育む生活指導	生徒課	①信頼関係構築のツールとしての「あいさつ」の常態化を実現するため、あいさつ運動にとりくむ。 ②M-PRIDE手帳を活用したタイムマネジメント能力を伸長するため、手帳活用例を紹介するなど啓発にとりくむ。 ③健康・安全・衛生意識の向上をめざし、整美委員会・保健委員会の活動を「見える化」する。 ④教職員研修などを通じて、不適応症状とその要因に対する知見を深める。学校不適応症状とその要因について知見を深めるための教職員研修を実施する。	学校自己評価アンケート(生徒) ①「社会のマナーやルール、校則について、指導が適切に行われていると感じる」 肯定的評価の割合(R3 生徒87.7%・保護者88.9% 生徒保護者の平均値) 4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満 ②「M-PRIDE手帳を活用してスケジュール管理や目標設定等を行っている」 肯定的評価の割合(R3 生徒 34.0%) 4:40%以上 3:35%以上 2:30%以上 1:30%未満 学校自己評価アンケート(教職員) ③「校内は清掃が行き届いており、きれいな状態である」 肯定的評価の割合(R3 教職員68.1%) 4:75%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満 ④不適応症状とその要因に対する知見を深めるための教職員研修の回数 4:3回 3:2回 2:1回 1:0回
	1年次	生徒が、自分と他人の関係を大切に、自らが尊重されていると思えるようにするために年次集会や年次通信等で活動や取り組みを取り上げる。	学校自己評価アンケート(生徒) ・「倉敷南高校に入学してよかったと思う」 ・「本校には1人ひとりが尊重され、まわりから受け入れられていると感じられる雰囲気がある」 二つの肯定的評価の割合の平均(R3 生徒 84.4%) 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満
	2年次	自由に思考・発想できる雰囲気を作り、互いに多様性を尊重する精神を育む。仲間と協働し、新たなことに挑戦する精神を育む。 <具体的方策> ①年次集会等で継続的に「多様性の尊重」講話 ②葦岡祭での生徒の発想・工夫を尊重 ③新たに挑戦する、仲間との協働する機会創出 ④生徒を表彰する(褒める)場面の増加	学校自己評価アンケート(生徒) 「倉敷南高校に入学して良かったと思う」 肯定的評価の割合(R3 1年次 85.9%) 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満 「本校には1人ひとりが尊重され、周りから受け入れられていると感じられる雰囲気がある」 肯定的評価の割合(R3 1年次 88.5%) 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満
3年次	・生徒が主体的に活躍できる場・仕組みを作る。 ・生徒会活動・各種委員会の活性化し、自治能力を高める。	学校自己評価アンケート(生徒) 「葦岡祭をはじめとする学校行事に満足している。」 肯定的評価の割合(R3 2年次 90.5%) 4:95%以上 3:90%以上 2:85%以上 1:85%未満	

本年度の具体的な学校経営目標	分掌	本年度の具体的な学校経営目標を達成するための課・年次内での具体的方策(教育活動)	評価基準
4 PDCAサイクルが機能する協働的な教職員組織	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な組織運営と業務の効率化のため、英語科や生徒会・委員会、部活動との連携を図る。 ホームページに掲載する学校生活や部活動の撮影やブログ記事の作成を、生徒会広報委員会の生徒が活動できるよう指導する。 	学校自己評価アンケート(教職員) ①「カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ、教育活動のPDCAサイクルが回り、その改善が進んでいる」 肯定的評価の割合(R3 教職員70.8%) 4:75%以上 3:70%以上 2:65%以上 1:65%未満
	教務課	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会議の会議録を作成して課員に配布する。 会議録は翌日(火曜日)までには作成して配布。 教務課所管の各種任務について、手順書を作成する。 	②「さまざまな教育活動にチームワークを意識して取り組み、授業・生徒指導などの連携がとれている。」 肯定的評価の割合(R3 教職員73.6%) 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会議の記録を各チームに速やかに伝達する。 リーダー会議録の作成(木曜日開催一週内)と回覧(翌週月曜) 年度当初、学校祭時期のサポートメンバーリスト作成と周知を年度内2回以上実施する。 年度当初や学校祭時期の業務量増大時には、各チーム相互にサポート体制をとり、機動的に対応する。 	③「風通しの良い職場づくりや働き方改革が進んでいる。」 肯定的評価の割合(R3 教職員62.5%) 4:70%以上 3:65%以上 2:60%以上 1:60%未満
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の進路状況について、旧年次と進路課がその結果を分析した進路報告会を実施する。進路報告会(5月)、進路研修会(7月・12月)実施。3年進路検討会(7月・12月・1月)実施。 また、3年の進路検討会の一部を利用して全教員対象の進路研修会を実施、進路指導法についての共通理解を図る。 毎週定例の会議を開催し、年次ごとの計画確認や実践の報告・検証を行う。また、入試説明会や報告会などから得られた最新の進路情報などの共有を図る。 学習実態調査や実力考査、校外模試などの結果分析による生徒の学力の現状を把握し、授業等の指導に生かす。 	④「各課・分掌などの年間計画は適切に進められている。」 肯定的評価の割合(R3 教職員80.6%) 4:85%以上 3:80%以上 2:75%以上 1:75%未満
	探究課	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会議の記録を各チームに速やかに伝達する。 チームリーダーを中心に連携を取り、行事やICT作業など業務量が増える際には年次・チームの枠を越えて対応する。 各自が担当した業務の内容を記録し、マニュアル化する。 	
	2年次	年次教員が協働する雰囲気醸成する。生徒対応は情報共有を重視し、年次全体で同じ方針のもとである。 <具体的方策> ①年次教員の業務分担の平準化 ②指導に関わる意思統一を重視 ③年次会議の有効利用(議題の焦点化) ④クロムブックを活用した情報共有	
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> 会議の要項と報告を事前に作成・周知し、会議時間の短縮に努める。 業務分担の平準化を目指しつつ、お互いが声を掛け合い、支え合う雰囲気醸成する。 	